

## 五都市(上海・南通・揚州・鎮江・無錫)周遊(3)

寺西 俊英

大明寺を後にして、バスに乗り込み个園に向かう。ほんの5～6分の近さだ。个園は揚州随一の名園と言われており、中国十大名園の一つでもある。名前にある「个」は竹の象形文字で、中国語を学んだ方はご存知であるが一個二個と物を数える時に使う文字である。特に石でできた「四季の景」が有名である。これは四季の風景を表現したものでその設計思想は次の通りである。

〈春の景〉は、色気があって美しく微笑んでいるかのように。〈夏の景〉は、濃い緑で雫が垂れるよう。〈秋の景〉は、化粧をしたように明るく美しく。〈冬の景〉は、眠ったように薄暗い。——とネットに出ているが凡人にはよくわからない。个園の一角に住居がいくつつかある場所がある。この庭園の持ち主は「黄応泰」という方でその一族が住んでいるとのこと。个園と命名したのは、「竹は〈堅固〉であり、かつ〈直〉であり、人間の心構えにも通ずるものだ」という考えからだそうである。

前号に書いたように、清代(1644年～1911年)に塩の流通で財を成した大富豪は庭園造りに励み、文化の隆盛に多大なる貢献をしたが、度重なる戦火で个園の他わずかな庭園を除き殆ど焼失した。誠に残念である。残っていれば蘇州に引けを取らない町になっていたであろう。蘇州は殆どが明代(1368年～1644年)に造られており、蘇州と揚州はそれぞれの時代を代表する街になっていたはずである。

次に紹介する「東関街」も清代の街並みを復元したものである。个園の黄家の軒先に沿って歩いて行くと、小さな門がありそれを潜り抜けると何とそこは東関街であった。何か裏木戸を潜った印象である。東関街とは、清代の揚州の商業の中心地であった地域を再現した全長1122メートルの通りで、最近観光地として整備されたものである。中国は戦乱や近年の経済発展で消失しつつある歴史的な街並みを保護しようとしているが、その一環である。東端の東門はかつての揚州城の城門の一つである。通りの両

側にはあらゆる店が立ち並んでいる。伝統的なお菓子屋、酒屋、扇子・剪紙・陶器・掛け軸などの専門店、粽子などの食べ物店と見るだけでも楽しい通りだ。土産物店に比較的に多いのが揚州名物の、「三把刀」を売るお店である。ここ揚州は古来刃物生産の盛んな土地であったと言う。三把刀とは、①包丁、②各種ハサミ、③修脚用道具、である。修脚とは、足の裏の角質化した皮膚や手や足の爪などを薄く削る道具である。セットでもバラでも売っている。これらに対する職業は、当然包丁はコック、ハサミは床屋や洋服の仕立て屋である。そうした職業には揚州には秀でた人が多いそうである。修脚用道具は、日本でも中国でも流行りのネイルサロンで重宝されそうだが、如何であろうか？

ここで揚州のいろいろな文化について紹介したい。そのなかで揚劇、書画、盆景(盆栽)、料理について書いていきたい。

### 〈揚劇〉

揚劇は、京劇や越劇(浙江省)、川劇(四川省)などの各地にある戯曲の一つである。江蘇省の揚州や鎮江などこのあたり一帯の地方劇である。「白蛇伝」などの演目は当然あるが、代表的な曲牌(元、明以降の曲調をいう)は、「梳粧台(化粧台のこと)」と出ているがまだ見たことがないので説明はできない。揚劇はいつのころから行われているのか定かではない



復元された清代街並み「東関街」



5都市とグルメ×5日間」のツアーだけに、毎日豊富な多彩な料理が出た。

が、2006年に「国家級非物質文化遺産」(国の無形文化遺産のこと)に登録されている。中国は各地で伝統芸能が盛んである。昨年10月に四川省の宜賓市に行った時、広場で「李庄草龍舞」に出くわしたことがある。この舞は「四川省非物質文化遺産」に指定されているとのことであった。

### 〈書画〉

書画と言えば、「揚州八怪」である。揚州八怪とは、清朝の乾隆帝の時代に現れた揚州を代表する一群の文人画家をいう。八怪は、「金農」など八人の著名な画家であるが、八人が誰を指すのか諸説ある。「怪」という文字を使っているのは、当時の伝統的な画法に比べ斬新で奇異な感じがすることからのネーミングらしい。八怪の画家たちは自由奔放で個性的だったため中国画壇に新風を吹き込んだ。共通の画風はないがとりわけ花鳥画に優れ四君子と言われる〈梅〉、〈蘭〉、〈竹〉、〈菊〉を好んで描いた。なぜ一度も都でなかった揚州の地に書画の文化が開いたかという、既述したように巨万の富を持った塩商人などが、競うように楼閣庭園を築き、楼閣に掲げる書画を求めたのである。このため各地から文人墨客が雲集してきたのだ。四君子については、過去に書いたことがあるが、要は上記の四つの草木は以下に書いたように君子のあるべき姿をよく表しているというのである。

蘭:「清逸」

優雅な姿態と高貴な香りを持ち、清らかなイメージである。季節は春。

竹:「節操」

真っすぐ伸びる姿は「純粹で正直な品格」、節は「屈しない節操」、空洞は「謙虚な精神」を表す。季節は夏。菊:「淡泊」

晩秋に咲き始める。寒い西風をものともせず、瑞々しい香りを放ち、静かに美しく咲く。季節は秋。

梅:「高潔」

寒さに負けず風雪の中でも凛々しく開花する。孤高で人に迎合しない品格を持つ。季節は冬。

国のトップに立つ人は、このような人物であって欲しいものだ。なお八怪が四君子をよく描くわけは、基本的な筆遣いを全て学べるからだそうである。

### 〈盆景〉

盆景とは盆栽のことだ。「揚派盆景」は中国五大流派の一つで唐の時代(618年～907年)に起源を持つと言う。近年盆栽が海外で注目を集め、英語では「BONSAI」と呼ばれているそうであるからてっきり盆栽は日本が起源かと思っていたがそうではなかった。唐の時代に行われていたものが平安時代に日本に来て始まったとある。能には「鉢木」の演目があるが鎌倉時代には武士階級の趣味として広く普及していたらしい。ネットの写真で見る限り、両国の盆栽は同じように見えるが如何であろうか? そういえば(その1)で南通市の濠河風景区に「南通盆景園」があると紹介したが、やはりいつかこの目で見てみたい。

### 〈料理〉

料理でまず思い浮かべるのは、チャーハンである。揚州料理はあっさりとした味付けだそう。上海料理も同じような味付けと思うが、原点は揚州にあるそう。その昔チャーハンといえばご飯と卵を炒めたシンプルな料理であったが、揚州で様々な具材を混ぜた「五目チャーハン」を作り出した。もう一つは、「揚州獅子頭」という肉団子料理である。友人によると中国人は揚州と言えば揚州チャーハンよりこの揚州獅子頭を思い浮かべると言う。ネギ、ショウガなどを練りこんだ挽肉をこぶし大にして弱火で長時間加熱して作るという伝統的な料理である。今回の旅でどこかで出たのかもしれないが気が付かなかったのが残念であった。

2回に分けて揚州を書いたが、次号は「鎮江」について紹介したい。

(続く)